



佐士原ロータリークラブ週報



会 長: 林 厚 雄	会 計: 柳 田 光 寛
副 会 長: 岩 切 正 司	会 報 委 員 長: 宮 原 建 樹
幹 事: 藤 堂 孝 一	

2004-2005 年度 R1 テーマ

第 882 回 平成 17 年 5 月 18 日 (水)

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 食 事 の 時 間
3. ロータリーソング
「手に手つないで」
4. 四つのテストの唱和
5. 会 長 の 時 間
6. 幹 事 報 告
7. ゲ ス ト 卓 話
8. 点 鐘

第 881 回の記録 平成 17 年 5 月 11 日 (水)

☆会長の時間 会長 林 厚雄 君

5月の連休も終わり、新緑の季節となり、野山には若々しい緑があちこちで見られ、公園などには美しい花々が咲き乱れています。年間でも目と心の安らぎを感じる季節です。

今日のお客様は高鍋クラブの函師義孝君と、6月より新入会員として初の女性会員となります永野陽子さんの2名です。

昨夜、理事会を開き次年度の役員・理事の選出の委員会を行いました。名簿は別紙の通りです。今日の会長の時間は、四つのテストについて、その由来をご紹介します。

四つのテストの創案者はハーバート J テーラ (ハーブ) でやり手で卓越したセールスマンであり、また行動家で信仰心が厚く、道義を重んじる人でした。彼は 1893 年 (112 年前) に米国ミシガン州に生まれイリノイ州のノースウエスタン大学を苦学の末卒業しました。卒業後第一次世界大戦で米国海軍の補給部隊員に従軍しています。1919 年には結婚してオクラホマ州に住み、石油会社に勤務しましたが、1 年後には同社を退社し、保険、不動産、石油リース仲介業を始めました。1925 年にはイリノイ州に戻り、シカゴのジュエル・ティー社に入社しとんとん拍子に昇進しました。やがて彼は、シカゴロータリークラブの会員となりました。

1932 年、ジュエル・ティー社の次期社長候補であった彼は当時破産寸前の状態であったシカゴのクラブ・アルミニウム社の再建を依頼されました。彼はジュエル社を辞め、これまでの給与の 8 割減という収入でクラブ・アルミニウム社の社長に就任しました。その上、運営資金に充てるため、自己資金 6,100 ドルを同社に投資したのです。

彼は、およそ 100 語からなる文章から社の倫理訓について構想をめぐらしましたが、これは長すぎると判断し、それを 7 つの項目にまとめたのです。しかし、これも長いと考え彼は、それを自問形式の 4 項目にまとめ上げ、それが、現在の四つのテストとなりました。簡潔さの中に深い意味を包含するこのテストは、事の大小にかかわらず、クラブ・アルミニウム社が諸事決定を下す際の基本となったのです。

しかし、この四つのテストが実社会でうまくいくだろうか? 実業家がこの指針に従って仕事をこなしていけるだろうか? という疑問も残され、ある弁護士は彼にこう言いました「もし、私がこのテストを厳密に実行したら、私は飢え死にするでしょう。ビジネスに関しては、四つのテストは、絶対に実行不可能です」。この弁護士の懸念も、わからないではありません。他者の利益を立脚点とした上で、真理を実践し、行動評価を求める倫理システムは、どんなものであれ、大きな負担を伴います。

そのようなシステムは誠実さと野望のバランスをとるのに腐心している人たちに、苦痛に満ちたかつ葛とう籐をあたえることとなります。またロータリーアンの中にも、四つテストは極度に単純化された哲学であって、その有効性は疑わしく相矛盾する趣旨からなっており、目標は非現実的である、と真剣に考えている人たちが常に存在します。

1930 年代のクラブ・アルミニウム社において四つのテストに照らして判断された内で、広告については「より良い」とか「最上の」といった表現が削り除かれました。四つのテストは徐々に同社の指針となって行き、顧客や従業員の間に、同社に対する信頼と好意が生まれることになりました。やがて、同社に対する信望は高まり、財政の改善に寄与することになり、1937 年までに、同社の負債は完済され、その後 15 年間に純資産は 200 万ドルに達しました。

例会場: 石崎浜荘 0985-73-1913 事務局: 〒880-0303 宮崎郡佐土原町東上那珂 10255
 齊藤美喜代
 例会日: 毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 TEL: 0985-30-5766 FAX: 0985-30-5788

